

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 2月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490100330		
法人名	株式会社シーフォークリエイツ		
事業所名	グループホーム 山ぼうし		
所在地	広島市安佐北区白木町大字字原890番1号 (電話) 082-828-7636		
自己評価作成日	令和5年1月27日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490100330-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 5年 2月 24日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>・当事業所が力を入れている点は、地域との交流を大切にしています。地域での清掃活動の参加や小学校・中学校・地域の集会所や銀行など認知症についての講義を行い、認知症の理解と協力に取り組んでいます。白木地区に限らず、講義の依頼があれば積極的に活動範囲を広げ圏域外での活動にも力を入れています。また、他の事業所とも連携を図り、情報交換を行うなどより良い施設になるように取り組んでいます。職員が仕事を行う上でやりがいを持つように職員の意見を尊重し可能な限り職員の意見に沿った業務流れにしています。また、勤務希望の制限は決めず可能な限り希望通りの勤務表を作成し、仕事しやすい環境に取り組んでいます。入居者の方には、山ぼうしに来て良かったと思えるように、季節に合わせた行事を行い、楽しんで頂けるように取り組んでいます。入居者や御家族の要望に答え、安心して過ごせるように職員一同取り組んでいます。入居者も職員も楽しい職場である事をアピールしたい点です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホーム山ぼうしは、豊かな自然に囲まれた日々の生活の中、一人ひとりの思いを大切に自分らしく日々を送れるよう、職員は、健康管理にも気を配りながら、穏やかに過ごせるよう支援を行っている。又、こうしたコロナ禍においても工夫をされ、室内で出来る行事や近隣をドライブ等して(桜見・紅葉鑑賞等)楽しんだり、食事レクレーションをして、利用者さんと出来る方は一緒に恵方巻やおはぎ作り・お好み焼きを作って昔取った杵柄で披露されている。家族は、そうした様子を担当職員から、電話や写真を送られ、大変喜ばれている。又、管理者は、地域に向けて、認知症サポーター養成講座等の講師を務め、小学校の生徒さん達・銀行員・地域の方々にお話をされ、理解を深めて頂く活動もされている。地域からも感謝され、野菜や花やパンが届く。そして、リビングルームには、ご近所さんから寄贈された七段飾りの雛人形が、賑わいを添えていて、アットホームな雰囲気の家である。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り後に、山ぼうしの理念と認知症ケアの十か条の把握と、実践に繋げられるように、職員皆復唱し、実施できるように努めている。	理念は、事務所兼リビングダイニングの見えやすいところに掲示し、毎朝唱和して、職員に理念共有の徹底を行っている。理念は、(常に利用者さんとご家族の立場に立って考え行動します。地域との連携を図り職員一同やりがいと満足感を持てるよう頑張ります。)共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域での清掃活動に参加させて頂き、地域の一員として活動を行っている。また、散歩に行かれる際は、ご近所さんとの挨拶を大切にしている。地域合同の消防訓練にも協力をお願いしている。	日頃から、地域の方が、野菜や花やパンを持って来て下さったり、職員が、地域の清掃活動をしたりして、積極的に取り組んでいる。コロナ感染以前は、施設で、いきいき100歳体操を行い、地域の方と交流し良い関係を築いている。又、防火訓練に地域の方が参加、協力して下さい、安全に避難することが出来ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターからの依頼にて、小学校・中学校・集会所など、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の病気に関する理解と協力をお願いしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回運営推進会議を開催し、施設の報告を行い、参加者から、意見を頂き改善と向上に努めている。フロア会議にて全職員に周知している。	2か月に1回、家族・町内会長等に声を掛けており、地域包括支援センター職員・民生委員・施設長・管理者の参加で開催している。ホームや利用者の近況や行事予定・ヒヤリハット等の報告をして、話し合いを行っている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護の入居者もいますので、生活課と密に連携を取り、情報交換とサービスの向上に取り組んでいる。	市担当者とは、コロナ感染対応での足りない所や申請内容の手続き等、相談、助言を頂き、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センターとは、認知症サポーター養成講座等の依頼を受けて、講師を務めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員で2か月に1回会議を開催し、話し合った内容を職員に会議録を参照して頂き、身体拘束をしない重要性の理解を呼び掛けています。	2か月に1回、身体拘束適正化検討委員会を開催し、事例を通して職員の意見を聞き、身体拘束する事の弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	フロア会議や研修にて、虐待防止について説明し、職員1人1人に注意を呼び掛けている。また、余裕を持って落ち着いて業務に取り組めるように、詰め込んだ業務にはしないようにしている。		

グループホーム 山ぼうし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>勉強会を行い、後見人の役割と重要性を理解している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時・解約時・変更時に家族へ連絡を行い、また家族からの疑問に関しても、対応することとしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>サービス担当者会議や、面会時に家族へ近況報告や、運営推進会議での要望や意見などあれば反映するように取り組んでいる。また、1階玄関に意見箱を設けている為、意見あれば反映するように取り組んでいる。</p>	<p>山ぼうしの便り「ロングデイズ」を家族に2ヶ月に1回、郵送して、日常の様子をお知らせする事で、喜ばれている。又、担当者からも毎月、電話での報告をしており、相談や意見を聞き、意見があればそれを運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>フロア会議や、業務中など常に管理者は、職員とのコミュニケーションを図り、意見交換を行うとともに、職員の考えや意見を反映させるように取り組んでいる。そうする事で、職員1人1人のやる気に繋げている。</p>	<p>フロア会議や日常業務の中で、職員の意見・要望・提案を聞いている。管理者は、職員から、意見を言い易い環境づくりを心掛けている。(収納ボックスや小机の購入等)</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>年2回の賞与、親睦会、残業はさせない、勤務間インターバル制度を導入している。勤務希望を取入れ、楽しく無理なく働きやすい環境作りを行っている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内勉強会・施設外研修の参加を行い、スキルアップに繋げている。介護の方法で、どのように対応すればいいのか、職員同士情報共有し、実践に取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>他施設との交流を図り、認知症に関する映画を鑑賞する研修会を行ったり、地域での認知症の講座に参加し、他施設との協力や、情報交換に励んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前に本人の情報を少しでも得る為にも、傾聴の姿勢でコミュニケーションを図り、性格や思いを知り、相手にも、自分の事を少しでも知って頂く事で、安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前に、バクグラウンドの理解に為、事前訪問し本人と家族からの話を傾聴し、要望に応える事で、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス開始前に、事前訪問し本人と家族からの話を傾聴し、必要とするサービスを確認し、アセスメントを十分に行う事により、本人又は家族の思いを可能な限り実現できるように取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	職員が全てを行うのではなく、入居者の方にも、無理が無い程度に、洗濯物たたみや、お盆拭きなどのお手伝いをお願いし、本人の役割を持って頂き、協力し合って関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月末に家族へ入居者の情報報告を行っており、その際に家族の意向などを聞くようにしており、職員だけではなく家族と共に入居者を支えている関係作りをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設入居前からの馴染みの方など、制限を設ける事はせず、いつでも面会や電話連絡など本人と繋げられるようにしている。現在は、新型コロナウイルスの感染防止にて状況によっては制限を行う事もある。	コロナ禍に於いて面会の制限がある中でも環境を整え、窓越しで面会をされており、画面での対面より、理解が出来るように思われる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者1人1人の性格や状況を把握し、その方にあったグループセッションにお誘いし、入居者同士の交流を図るようにしている。また、グループでの関りを好まない方もいますので、その方には、職員が必ず付きそう事で、孤立しないように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所された入居者の家族に施設外で見かけた時は積極的に声掛けを行い、関係性を断ち切らないように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成の際、本人と家族の希望を取り入れたプランの作成や、その都度本人と家族より希望があれば可能な限り、対応し自立支援を念頭に置いたケアに取り組んでいる。	入所当初、アセスメントを取り、生活の様子や習慣を聴き取り、それを継続できるよう支援している。(読書・新聞購読・肉嫌い)又、髪染め希望、ピザが食べたい、折鶴を平和公園に持って行きたい等、出来るだけ本人の意向に沿えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面接の際、生活歴の情報を聞き、今までされていた生活の環境をなるべく変えず、うちの施設に変わられても安心して生活ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居者の1日の状況を記録し、体調の変化や、変わった出来事の把握に努め、職員皆が同じサービスの提供が行えるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族・担当職員・入居者・介護支援専門委員が3ヵ月毎のモニタリングと半年に1回サービス担当者会議を開催し、意見交換を行い、現状にあった介護計画書を作成し、実施に努めている。	モニタリングは3ヶ月に1回、介護計画の見直しは6ヶ月に1回、サービス担当者会議を開催し、本人・家族の意向、担当職員・介護支援専門員等、の意見を入れ、現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に日々の様子の記載を行い、また日々の生活で気づいた点や、対応が変更した点など、ケア記録に記載する事で、職員会議にて個々にあった対応の統一ができるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	日々個々によって、体調の変化や考え方の変化もある為、型にとらわれず、本人の意思を尊重した対応を心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域包括支援センターとの連携や、運営推進会議での意見交換により、地域情報の把握や、地域との連携に努めている。また、地域のパン屋さん(プーランジェリーリシエツト)がパンの差し入れをして頂き、入居者が食べる喜びをサポートして頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の提携している協力医の受診や往診の他に、本人又は、家族の希望する病院や入居する以前から利用している病院等希望があれば、継続して家族の協力の下、受診を行っている。	かかりつけ医の往診は、2週間に1回加えて24時間体制もある。訪問看護は毎週、歯科医院は、希望があれば近隣なのでお連れする。他科受診は、家族対応としているが、都合がつかない場合は、職員が、対応をして、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	週1回訪問看護にて、入居者の状況を説明し、適切な治療や対応が行えるように努めている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院先の病院とは、小まめに情報交換や、訪問する事で、退院後も入居者が安心して適切な対応が行えるように努めている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	契約時に当施設でケアできる範囲を説明し、理解を得ている。基本看取りは行っていないが、本人又は、家族の希望であれば、協力医の指示や治療の下、出来る限りのケアを行い終末期に向けた対応もさせて頂いている。	入所時に看取りについて事業所で出来る事を説明している。基本看取りは、行っていないが、今期も本人・家族の希望により、看取りを行っている。それに向け、医師・看護師・家族・職員全員で方針を共有し、終末期に向けた取り組みを行っている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	急変時、事故発生時の対応に関して、インシデントでの事故の集計を出し確認までは行っているが、具体的な対応等に関して全体での取り組みまでは不十分である。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	自施設での消防訓練と災害訓練を取入れマニュアル作成する事で、災害時に職員が適切な判断で行動できるように努めている。また、地域との消防訓練を行い、地域の協力の下入居者の安全と安心した暮らしが出来るように努めている。	年2回、消防訓練と災害訓練を行っている。防火訓練は、自治会と協定しておられ、地域の方の協力の下、利用者さんと共に安全に避難訓練を終えることが出来た。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	フロア会議で職員にプライバシー保護に関しての説明を行い、入居者や御家族の尊厳を重視し、プライバシー保護に努めている。	プライバシー保護・接遇は、日頃から、管理者の方からもよく説明されており、トイレ誘導や入浴時等の注意点等、対応している。	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。</p>	入居者からの希望をその都度傾聴し、希望があれば可能な限り提供できるように努めている。		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	業務優先ではなく、入居者を優先に考え、本人のペースで、一日を心身共に穏やかに過ごせるように努めている。		

グループホーム 山ぼうし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	起床時に整容する事で、身だしなみに気を付けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	季節を感じる料理の提供や能力に合わせた作業をお願いし、共同で食事の準備と片付けを行うようにしている。	食事は、3食手作りで、ご飯の炊きあがりの匂いや野菜を刻む音等、家庭的な雰囲気があり、食事を楽しみにされている。食事レクリエーションの日があり、恵方巻きやお好み焼きやソーメン流し等、おやつも職員と共におはぎ作りやどら焼き等を作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量を記録し、個々の状況を把握する事で、安定した食事量や水分量を提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアセットを準備し、食後自己にて口腔ケアできやすいように努めている。また、自己にて口腔ケアが難しい入居者に対しては、介助を行い、口腔内を清潔に保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	夜間オムツを使用している入居者でも、日中は本人の意思を尊重しつつ、トイレでの排泄ができるように声掛けや、介助を行い、極力トイレでの排泄が出来るように努めている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を作成し、パターンを把握して、声掛けや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘の方には、適度な運動や極力水分をしっかり摂って頂き、また3・4日排便がみられない入居者に対して、便秘薬の内服により排便コントロールを行い、定期的に排便ができるようにしている。また、入居者の状況のに合わせて随時、担当医に連絡を行い、適切な処置や指示を頂くように努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	入居者に固定の入浴日を設けているが、体調に合わせて、日にちを調整を行っている。楽しく入浴して頂く為にも、ゆっくり入浴して頂き、しっかりコミュニケーションを図り、時によっては、柚子風呂にて楽しく入浴できる工夫を行っている。	入浴は、週2回としているが、体調に合わせて日にちを調整している。柚子風呂にしたり、入浴嫌いの方も時間をずらしたり、同姓での希望を聞きながら、ゆっくりと入浴して頂く工夫を心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者によって、入眠する時間が違う為、休みたい時間に休まれている。不眠の方に対して、コミュニケーションを図り、安心して入眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者のファイルに処方されている薬の説明書を保管しており、職員各自が、薬の名前、効能、副作用等確認できるようにしており、入居者の内服している薬について把握するように努めている。		

グループホーム 山ぼうし

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	入居者1人1人性格や生活が違う為、活動が好きな方には、グループレクリエーションの参加をお勧めし、グループでの活動が苦手な方に対しては、個人で行える作業を職員と一緒にを行い、役割と楽しみを作れるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気がいい日には、散歩にでかけるように努め、なるべく外出の機会を作るようにしている。また、外出行事を取り入れ、普段行かない場所にも行くようにしている。また、家族様の協力の下、家族様の希望にて家族様が入居者と共に外出に行かれている場合もある。	出来るだけ外出支援を行えるよう、天気の良い日には、外出の機会を作るようにしている。初詣・花見・紅葉狩り・ふじ棚見物、そして、日常的には、近隣の散歩等をしたり、テラスで、お茶やフルーツサンドを食べたりして、外気浴を楽しんで居られる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本、金銭管理は、御家族か、施設で管理しているが、本人が管理したい入居者に対して、御家族も理解の上、本人管理している方もおられます。入居者の購入希望があれば、その都度ご家族にお願いしたり、職員が購入するようにし、入居者の希望を叶えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の連絡や、手紙のやり取りの希望があれば対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	普段は、フロア内をシンプルにし、ストレスを感じさせない落ち着いた空間にしている。季節に合わせた飾りつけを行い、大きな窓にて外を眺める事で四季を感じれる空間にも取り組んでいる。	玄関周りには、地域の方が、季節の花を植えて下さり、季節を感じる事が出来る。リビングルームは、広々としており、利用者一人ひとりの居場所がある。又、七段飾りのお雛様が飾ってあり、部屋を一層和ませている。壁面には季節ごとに手作りの作品等が飾られ、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースにソファや食卓を設置し、入居者がゆっくりとくつろげる環境を整え、入居者と交流がとれやすいように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使用していた家具や生活用品を持って来て頂く事で、使い易い環境に整えている。また、入居者が住みやすいように環境を整えている。	居室には、今まで使い慣れた筆筒・テレビ・洋服掛け・衣装ケース・家族写真・手作りカレンダー・利用者の作品等が、配置よく並べられ、本人が、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内部は、バリアフリーに設置している。また、手すりを廊下やトイレなど取り付ける事で、障害を持った方でも自分の能力を生かし、自己で行える範囲が広がり、自立した生活が行えるようにしている。		

グループホーム 山ぼうし

V アウトカム項目(1F)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 山ぼうし

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム山ぼうし

作成日 令和 5年 2月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	急変時の対応に関して口頭での説明を行っているが、全体勉強会では行っていない。	年2回実施する。	12月・9月に実施する。	9ヵ月
2	34	事故発生時、インシデントレポート提出し集計を出しているが、その後の活用が不十分である。	2ヵ月に1回実施する。	2月4月6月8月10月12月	1年間
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。